

「学びの場を与えたい」

個性きらめく

光星学院創立60周年

①

「進学を望む子どもは八戸や八戸商業などに学びの場を与えた4校のみだった。い」。

学校法人光星学院の初代理事長となった中村由太郎さん(故人)は、強い思いを持って新たな高校の設立に動いていた。

法人初の教育機関である光星学院高が設立されたのは1956年。当時、男子を受け入れていた全日制高校

は八戸や八戸商業などに学びの場を与えた4校のみだった。

収容人数約1200

人に対し、受験者数は約2千人。多くの受験浪人が生まれ、男子が通うことができる高校の不足は社会問題と化していた。

こうした状況の中、同校を設立したのは、中村さんも経営に携わっていた私学の白菊学

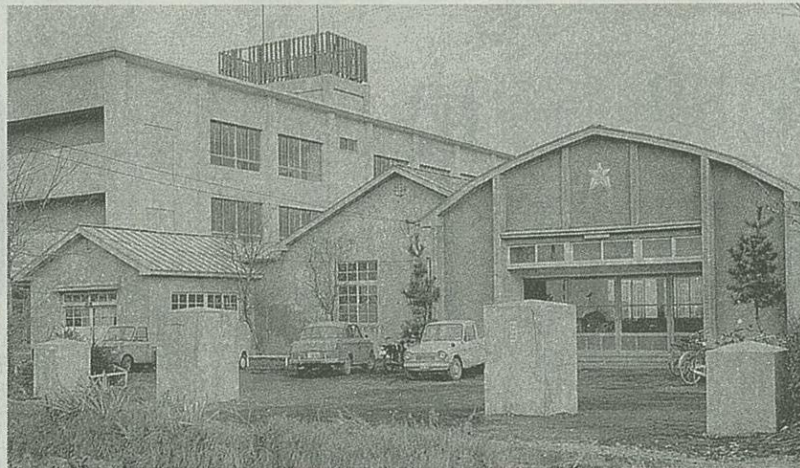
初代理事長の強い思い

園。県の審議会に新設を申請したが、用地や教員数などの問題で、審議が長引いていた。

「教育の機会均等の場をつくりたい」。そんな強い思いを持っていた中村さんは、私財を投じて土地を学校に寄付。

土地が確保できたこともあり、56年4月18日、高校新設の許可が下りた。

さらに、67年には光星学院高付属の幼稚園の設置が許可され、81年には八戸大



園から開学。現在では幼稚園から大学までを抱える学校法人に成長した

開学当初の光星学院高(当時)の校舎。光星学院は幼稚園から大学までを抱える学校法人に成長した

た。2013年には法人内全てのグループ校の校名を変更。「八戸学院」の名を冠する校名とし、地域に根差す学校法人の姿勢を前面に打ち出した。

現理事長の法官新一人さんは「(法人では)多様な個性を持った生徒や学生を受け入れてきた」とし、「今後も地域に貢献する人材を輩出したい」と強調する。

創立60周年を迎えた学校法人光星学院。これまでの法人の歩みと、将来構想などを紹介する。

(福田駿)